

クリミア戦争 1853-56 後、1870年代頃まで、列強体制が緩み各国が列強の干渉から相対的に自由な環境にあった。そのため、イタリア・ドイツなどで国家統一をめざす戦争が起きたのだが、ビスマルクはこの状況を塗り変え、ドイツ帝国に都合のよいように列強体制を再構築する。

**ビスマルクの外交政策** 統一後のドイツは宰相ビスマルクが動かしていた。国内政策はNo.135で既習。

1882年のオーストリア・イタリアとの**三国同盟**、1887年のロシアとの**再保障条約**によって、ドイツは【1:】と呼ばれる安全保障体制をとった。

1) ビスマルク体制 (ビスマルク外交) の**目的はフランスの孤立化** → 三帝同盟、三国同盟と再保障条約 (後述)  
 普仏戦争によってアルザス・ロレーヌを奪われ巨額な賠償金を課せられたフランスから復讐されることを未然に防ぐため、フランスと同盟する可能性のある諸国をドイツ側に引き入れた。特にロシアがフランスと同盟を結べばドイツは東西から挟撃されるのでロシアとの提携強化に努めた。

2) 1873年、【2:】 結成・・・ドイツ (ヴィルヘルム 1 世)、オーストリア (フランツ=ヨーゼフ 1 世)、ロシア (アレクサンドル 1 世) が、少数民族の独立運動や革命運動に対抗しこれを抑圧することを約した同盟。  
 《混同に注意》ウィーン会議中に成立した君主間の同盟は**神聖同盟** (1815) である。

一貫して言えることは、バルカン半島で、パン=スラヴ主義を利用して勢力拡大をはかるロシアとオーストリアとの対立は、どうにもできないということ。

《三帝同盟はこうして崩壊した》 その後の概要も含めて。  
 1875年、ボスニア・ヘルツェゴヴィナで民族蜂起 (ブルガリアに波及) が起きて以来、**オスマン帝国**は領内のスラヴ民族を弾圧した。1877年、ロシアはスラヴ民族の保護を名目にオスマン帝国に宣戦し、ロシア=トルコ戦争 (露土戦争) を引き起こした。イギリス、フランスなどはこのときは干渉できず、オスマン帝国は完敗した。勝利したロシアは1878年、**サン=ステファノ条約**で、事実上バルカン半島を得た。

これにはイギリス・オーストリアが猛反対！ビスマルクが「誠実な仲介者」を自称してベルリン会議 (1878年6~7月ウィーン会議以降最大の国際会議) を主催し調停に入ったが、ビスマルクは終始イギリス寄りの立場をとり、1878年のベルリン条約でサン=ステファノ条約を破棄し、ロシアの南下政策を三度失敗させた！**ロシアは怒り、1878年、三帝同盟は事実上無効化した**。あたりまえである。79年にロシアが正式に離脱、三帝同盟は消滅した。

これに対応して、残るオーストリアとの連携を強化するため、後掲①のドイツ・オーストリア同盟を締結した。しかし三帝同盟は、1881年に新たな内容で復活した (新三帝同盟)。1885年、ブルガリア問題でロシア・オーストリアが激しく対立し、期限の1887年にオーストリアが更新を拒否し消滅した。

新三帝同盟の内容は、締約国が締約国以外と交戦する場合には他の二国は中立を守るという軍事同盟で、議定書として、ボスフォラス=ダーダネルス海峡閉鎖の原則の維持、バルカンにおけるロシアとオーストリアの利益範囲の確定を含み、両国の対立を避ける工夫がされていた。

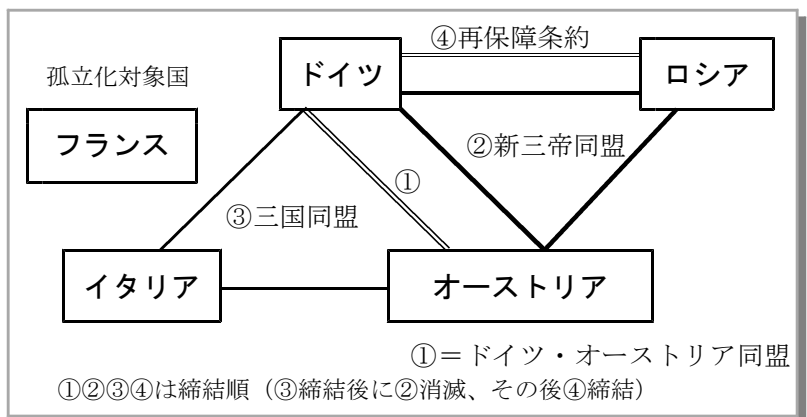
3) 三帝同盟消滅後のビスマルク外交

①1879年 【3:】・・・**ロシアからの攻撃に対してオーストリアと相互に全面的な援助を約した**。  
 《重要》これは強力な軍事同盟である。それでいて、この条約で「仮想敵国」としているロシアを陣営内に留めてフランスを孤立させようとした。それが後掲④の条約である。

②1881年6月 三帝同盟をあらたな内容で復活させ、**新三帝同盟** (1887年まで存続) を締結した。  
 ドイツの国際的な発言力が強まり、ロシアは一時バルカン方面への南下政策を中断し、中央アジアや東アジアへ進出する方向に政策転換したので、新三帝同盟を締結した。

③1882年 【4:】 結成・・・ドイツ、オーストリア、イタリア  
 チュニジアを仏が保護国化したことに不満を持つイタリアを①のドイツ・オーストリア同盟に取り込むことで成立した。1882年から1915年まで存続し、20世紀初頭以降、イギリス・フランス・ロシアの三国協商と対決し、第一次世界大戦の勃発に至った。  
 1885年から87年にロシアがブルガリアに進出しオーストリアとロシアの対立が激化して②の新三帝同盟は崩壊した。そこでビスマルクは④の条約締結に向かった。

④1887年、新三帝同盟の崩壊で 《重要》  
**ロシアと【5:】** を締結 その主な内容はバルカン半島における国境の現状維持。締約国の一方が他から攻撃された場合、他方は中立を守ること。  
 なお、ビスマルクはドイツ・オーストリア同盟を結んでいるオーストリアに漏れることを恐れてこれを秘密条約とした。  
 強力なドイツ・オーストリア同盟が既にある上に重ねて締結されたので「二重保障条約」と言うべきだが、なぜか「再保障条約」という訳語が一般化した。両方覚えること。



5) 1880年代以降、ドイツは植民地獲得に乗り出す。特にアフリカ。国民の関心を海外に向ける意図がある。  
 以下の記述①から④は、図 1 中の①から④に対応する。 ①1884年 **カメルーン**の植民地化に着手 1902年正式に領有  
 ②1884年 **南西アフリカ植民地**に進出 1885年領有 現在のナミビア  
 1904年に対独反乱、ヘレロ戦争 (ヘレロ・ナマクワ虐殺) 起きる。

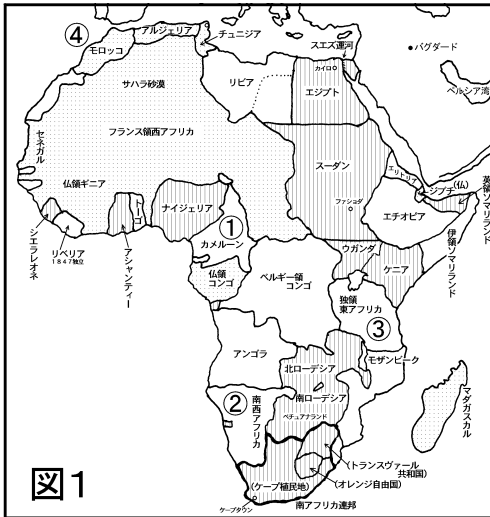


図1

- ③1885年 東アフリカ植民地を領有 1891年直轄植民地  
現在のタンザニア・ルワンダ  
1905-07年「マジ=マジの蜂起」が起きた。綿花強制栽培が原因。
- ④1905,1911年 フランスとの間でモロッコ事件を起こす。
- 6) ビスマルク時代には、太平洋方面でもビスマルク諸島(メラネシアの一部)とミクロネシアの大部分を占有した。  
赤道以北の独領は1922年、日本の委任統治下に置かれた。
- 7) ビスマルク時代の保護貿易政策と第2次産業革命の成功で、ドイツはイギリスをも凌ぐ工業国に躍進した。

### ヴィルヘルム2世

- 1) 1888年、ドイツ帝国の新皇帝【6: 世】位1888-1918 が即位した。新皇帝は再保障条約の更新についてビスマルクと衝突！新皇帝は、積極的な対外膨張政策を主張し、1890年、ビスマルクを引退させ、ロシアからの再保障条約の更新要求を拒絶した。この1890年をもってビスマルク体制は崩壊した。

翌1891年にはビスマルクが最も警戒していた露仏同盟(1894年に完成)が結ばれた。

ヴィルヘルム2世は海軍強化など富国強兵政策をさらにすすめて、対外膨張政策を行った。これを特に「【7: 】」と言う。大きく「世界」と冠しているが単にそれだけでヴィルヘルム2世の政策を指す。

- 2) 1890年に【8: 】を廃止した。  
これを受けてドイツ社会主義労働者党(1875年結成)は、【9: 】と改称し今日に至った。1890年の選挙で142万票を獲得、35議席を確保。1891年、マルクス主義的なエルフルト綱領を採択、世界一の社会主義政党となった。1912年帝国議会で第一党に躍進したが、第一次世界大戦では戦争政策を支持し評価を落とした。・・・ナチ政権下等複雑を極めるので省略・・・第二次世界大戦後、西ドイツでは1959年以降マルクス主義を捨て、議会による漸進的改良をめざす中道左派の国民政変に変貌した。なお、中道右派のキリスト教民主同盟は1945年結成。現2017年与党、党首はメルケル。
- 3) ヴィルヘルム2世の世界政策は、第一次世界大戦の要因となった。また、ヴィルヘルム2世はアーリア人の優秀性を信じ、ユダヤ人や黒人を劣等民族と見なし、日本などアジア人の台頭を「黄禍」ととらえ警戒した。国内では台頭してきた労働運動、社会主義運動に対する資本家層の不安が強まる中で20世紀を迎え、ドイツのナショナリズムが異常に高揚していった起点はここにあるとも言える。

### オーストリア=ハンガリー(二重)帝国 1867~1918

- 1) 1866年、プロイセン・オーストリア戦争(普墺戦争)に敗れ、ドイツ統一から除外されたオーストリアは、マジャール人の要求をいれて、ハンガリー王国の建設を認め、両国は共通の外交、財政、軍事政策を持ち、別個の憲法、行政政府、立法府を持つ。なおかつ、オーストリア皇帝がハンガリー国王を兼ねる。・・・この妥協を受け入れて、【10:

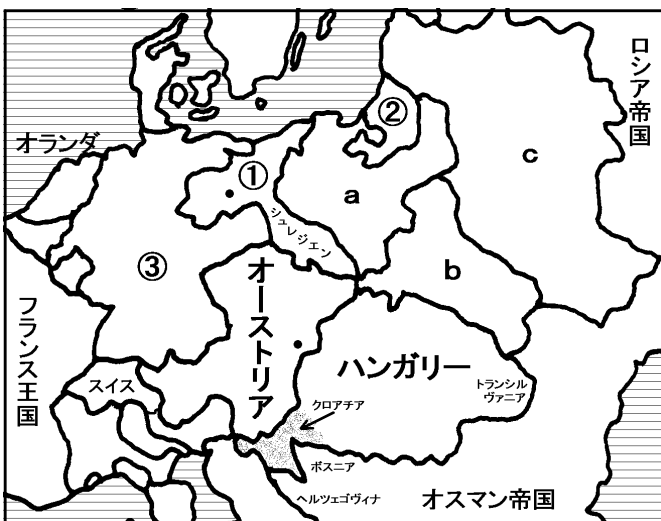
(二重)帝国】が成立した(1867)。このとき(1867)にオーストリア、ハンガリー間で締結された協定を

【11: 】(「妥協」という意味)と言う。

オーストリアでは、ポーランド語やチェコ語の使用も認められた。オーストリアは、ドイツ資本を導入して富国強兵政策をすすめて、バルカン半島のスラヴ諸国を侵略して勢力圏の拡大をはかった。

なお、現在のオーストリアの住民はほとんどドイツ人。公用語もドイツ語。この時代には、ドイツ人が他の民族を支配していた。現在の国名の正式日本語表記は「オーストリー」である。

注意！今19世紀後半を扱っているのに、下図はあえて18世紀半ばの国境線を示した。厳密ではないが分かりやすい。



- 2) ハンガリーでは  
1868年、クロアチアが自治を獲得した。トランシルヴァニアなどでは、強力なハンガリー化政策がすすめられた。

《18世紀半ばこうだった》

①はプロイセン ②は東プロイセン

③は300以上の封建諸領邦が割拠

ドイツ帝国は①+②+③+aである。

《ポーランド分割》ポーランドは18世紀末までに消滅

a→プロイセン b→オーストリア c→ロシア

《シュレジエン地方(鉱工業地帯)》現在はポーランド  
オーストリア継承戦争(=第1次シュレジエン戦争 1740-48)でプロイセンがオーストリアから奪い、第2次シュレジエン戦争(1744-45)を経てアーヘン和約(1748)で正式に領有。七年戦争(=第3次シュレジエン戦争)後のベルトウスブルク条約(1763)でプロイセン領確定。

《復習》この時代の少し前の時代の民族英雄・・・ポーランド分割の際、愛国者コシューシコ(コシチューシコ Kosciuszko 1746-1817)は義勇軍をつたって抵抗した。オーストリア=ハンガリー帝国成立(1867)以前であるが、ハンガリーではコッシュート(Kossuth 1802-94)らが、二月革命後の革命的状況の中で1849年独立を宣言、執政官になったがロシアに敗れた。